

中学 2 年 前期第 2 中間テスト 講 評

【国語】（担当：本井）

平均は 48.8 点です。授業時に取り上げた文章に関する大問、自学自習テキストからほぼ同じ問を出題した大問の点数の低い答案が目立ち、とても残念でした。設問の指示を読んでいないとしか思えない解答も多かったです。人の話をしっかり聞く力はそのまま、記されている言語情報をしっかり読み取る力にもつながります。

まずは人の話、注意をしっかりと聞く力、態度を養いましょう。それがこの学年の多くの諸君の課題です。伸ばせる力を伸ばさないのは、もったいないと思います。

【社会】（担当：木部）

今回のテストは「旧石器時代」～「鎌倉時代前期」の範囲からの出題でした。平均点は 67.7 点でした。前回のテストから歴史分野に変わり、点数が大きく変わった人も少ないと思います。歴史に限らず勉強が得意になるためにはまずは「興味・関心」をもつことだと思います。ただ点数を取るだけ、ただ暗記するだけの勉強は苦痛でしかありません。興味関心をもって、自分で考えることで勉強が楽しくなり、自然に得意になっていくと思います。「こんな勉強将来何の役にたつの？」「勉強して何の意味があるの？」とか理屈を言う前に、まずはその勉強に興味をもって接してみましょう。

「これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」

【数学】（担当：坂根）

今回の出題の中心となった「確率」は、しっかりと教え方が身につかなければ点数には結びつきません。その点を強調しながら授業をここまで進めてきました。確かに平均点は約 68 点と悪くはありませんが、高校数学で学ぶ「確率」と比較すれば、まだ基本的な内容ばかりです。この単元については、夏期補習や夏期課題を通し改めて復習をするようにしましょう。さらに次は以前より重要な単元であると言ってきた「1 次関数」となります。夏期休暇を挟む形で履修することになりますが、ここが中学数学の大きな山場の一つと考えて集中して取り組むようにしてください。

【理科】（担当：佐藤）

今回は「動物の体のつくりとはたらき」、「動物の行動のしくみ」からの出題でした。平均点は 62.7 点となり前回と比べて 15 点ほど下がり、学年最高点も前回の 97 点から 90 点となりました。また、平均点の 60%に達しなかった人は前回の 4 人から 8 人と倍増しました。全体的に問題の難易度が上がったことや難易度の高い問題に初めて見るパターンの問題があったことなどで、かなり全体的に苦戦したような印象を受けます。

一方で、実際の受験では初めて見るようなパターンの問題も多く出題され、場面の状況をしっかり読み解いて正解を導き出す力が求められます。初めて見る問題だからと、考えるのを止めたり、問題を解くことをあきらめてしまつては、自分が納得の行く結果は得られないでしょう。

次回から物理分野に入るので、あまり試験の復習をしようという気になれないかもしれませんが、このような点を踏まえて今回の試験、しっかり復習して欲しいと思います。これからも理科の学習に前向きに取り組んでいきましょう。

【英語】（担当：早瀬）

今回のテストは **New Treasure** の Lesson 4 まで（文法事項は文型・不定詞中心）が範囲でした。平均点は前回の 49.6 点（20 名欠席）から 53 点（5 名欠席）に上がりました。前回の講評でも書きましたが、予鈴着席して授業を集中して受けること、授業ノートをきちんと取ること、その日のうちに必ず授業ノートを見て英文を書く練習をして覚えること、この 3 つを実行する努力をする生徒が増えてきたのは、大変喜ばしいことです。

定期テストの問題の大半は授業でリハーサル済みの問題であり、長文読解問題も初見のものは出題していないので、どんなに英語が苦手であっても最低 3 割は得点できるようになっています。残念ながら「毎日こつこつ」の重要性が未だにピンとこない生徒が多く、週課題の遅れにもそれが現れています。週課題をほぼ予定表通りにこなせている生徒は全体の 4 割（中 3 でアドバンストコースに進んでも大丈夫な生徒）、課題未提出または課題が半分も終わっていない生徒が 4 割、中間層は 2 割というのが現状です。

この先どのような進路を選んでも英語はもれなくついてきますので、今日できることを今日のうちにしっかり実行する習慣をつけましょう。夏休み明けすぐに今度は「実力テスト」があります。当然ですが、定期テストと同じではありません。実力テスト当日に各自の学力のピークが来るように、計画的に準備を進めていきましょう。